

科学捜査研究会活動報告書

1. 代表者、副代表者

代表者 氏名（所属）： 鈴木真一（警察庁科学警察研究所）

副代表者 氏名（所属）： 中西俊雄（兵庫県警察本部科学捜査研究所）

2. 研究会開催記録（日時、場所、特筆すべき内容（他の研究会との合同開催や学会との共催など））

- ・第2回、2007年11月7日、フロラシオン青山（日本法科学技術学会と共催）

3. 2カ年計画の遂行状況および目的の達成状況

研究会の目的である安全・安心の社会構築へのSPring-8の貢献の目的はある程度達成されたと考えている。研究会での報告・検討課題などを下記に示す。

- SPring-8における研究成果「科学捜査技術における超高感度分析法の開発」が、平成18年度 文部大臣表彰科学技術賞（開発部門）を受賞し、警察内部のみならず、社会的にその有用性が認知された。
- SPring-8における研究成果の一部を含む研究「科学捜査における先端分析化学技術の応用に関する研究」が平成20年度日本分析化学会技術功績賞の受賞が決定し（授与式は、平成20年9月）、学術的にもその広範な応用範囲が認知された。
- 鑑定例の討論になったため、完全に参加者を限っての会になったが、新たな微細物件に対する分析例（警察組織では効果的応用事例と呼称する）が報告される一方、事案の解決に結びつかなかった事例について検討を行い、SPring-8利用者の知識の底上げが図られた。

4. 研究会活動により得られた成果（例：研究会が核となり行った外部資金獲得の申請や実績、コンソーシアムの立ち上げ、新規ユーザーの開拓、施設の改善・高度化に関わる提案やその実績など）

- 司法関係者の間で、特に警察のみならず検察側に「SPring-8 万能論」があり、分析対象物が多量にある場合など、不適切な場合についての共通認識が得られた。
- 種々の物件に最適化した励起エネルギーの差異についての研究の進行状況が報告された。

5. 研究論文発表リスト（主要なもの5編程度）

- ・「放射光蛍光エックス線分析法による加熱及び非加熱板ガラス中の微量不純物分析と法科学的異同識別への応用」笠松正昭, 吉川ひとみ, 東川佳靖, 鈴木康弘, 鈴木真一, et al. 分析化学, 56(12) 1159-1164 (2007).
- ・「Lower limits of detection of synchrotron radiation X-ray spectrometry and Its application for discrimination of glass fragments」T. Nakanishi, M. Kasamatsu, Y. Suzuki, S. Suzuki et al., Forensic Sci. Int'l., 175 227-234 (2008).
- ・「高エネルギーシンクロトロン放射光蛍光エックス線分析の科学捜査への応用－10年の歩み－」鈴木真一, SPring-8 Information, 13 1-7 (2008).

6. 研究会 Web ページ (研究会の情報を公開している Web ページなどがあれば、URL をご記入ください。)

http://

研究会の性質上、内容の公開はできない (研究会自体の存在を警察庁は、その存在に難色を示している)。特に事案が結審するまで詳細の発表は禁止されており、裁判の証拠開示まで、鑑定に **Spring-8** を用いたことすら公表できない状態にある。

7. その他 (特筆すべきことがあれば、ご記入ください。)